



理事長あいさつ



公益社団法人
京都保健会 理事長
吉中文志

この度理事長に就任いたしましたので、ご挨拶申し上げます。

京都保健会は1956年に設立いたしました。「医療並びに公衆衛生の発達普及をはかり、労働疾病、保健衛生等社会医学の研究を行い、国民の健康を守ると共に社会人として生活できるよう援助し、社会福祉の増進に寄与すること」を目的としています。

今でいえば、「医療並びに公衆衛生の発達普及」は、五疾病・五事業と在宅医療であり、地域包括ケアに当たります。「労働疾病、保健衛生等社会医学の研究」は、全国に先駆けていち早く取り組んできた無料低額診療事業の研究に加えて、社会疫学や臨床研究などに広がっています。「国民の健康を守ると共に社会人として生活できるよう援助し、社会福祉の増進に寄与する」とは、当会の保健、医療、介護活動は人間的な発達を支えることをめざしたものであり、QOLを最大化する医療や介護を地域の中で実現するというスペクトラムをもっています。

当会の医療、介護の現場では、高齢者、子ども、若もの、妊産婦などほぼすべての層において格差と貧困が深刻化していることが実感されます。認知症、老々介護、メンタル不調、子どもの貧困など、困難にある人びとの社会的孤立も目立ちます。一方で困難を支えるべき社会保障は必要とする人たちに届いていない実態が深刻です。負担増などによる給付制限が原因です。政治が国民の生活にしっかりと向き合っていないことに大きな問題があると言わざるを得ません。

京都保健会の使命は、患者の立場に立つて親切でよい診療と介護を行い、力をあわせて地域のひとびとの生命と健康を守ることです。医療介護サービスを提供するだけでなく、地域連携の推進も当会の事業の柱として重視します。日本国憲法が定める個人の尊重ならびに基本的人権の擁護を原則として活動します。国民主権と平和主義についても同様です。

当会の事業を飛躍させるために、京都民医連中央病院を南太秦へリニューアル移転する計画です。2019年を予定しています。

みなさま方のご指導、ご鞭撻よろしくお願いいたします。

2016年度事業報告・決算承認時社員総会

6月17日に開催した京都保健会定時社員総会は、2016年度事業報告、決算、定款変更等の議案を全員一致で承認し、新しい役員を選出しました。承認された事業報告、決算の概要は次のとおりです。

京都保健会2016年度事業報告

1. はじめに

2016年度は、「地域医療・地域包括ケアを担う急性期医療機能（＝病床機能）を確保しつつ、事業を拡大し、収益増を実現する経営計画をつくること、在宅医療の積極的な展開と、介護において法人収益比10%をめざす事業を切り開くこと」で収益を伸ばし、地域包括ケアに貢献する」という法人中期計画における経営の基本方針に沿って、必要利益獲得に向けて事業活動を遂行してきました。

2. 京都民医連中央病院総合移転に向けて

(1) 京都民医連中央病院総合移転計画の到達

2016年度は、「総合移転の基本コンセプト実現を目指す基本計画の確定、経営計画づくり」を重点方針の筆頭に掲げました。具体的には、事業構想と病院設計、経営・資金・財務計画、建設予定地の開発工事に向けた地元や行政との協議などを並行して進めてきました。

病院建設の前提となる土地開発工事は、近隣住民との協議の上で、合意が必要な事項をひとつずつクリアしながら、行政関係機関との協議、南太秦学区全住民を対象とした説明会を経て、まちづくり条例にもとづく手続きが完了しました。

(2) 京都保健会中期計画の推進に向けて

京都民医連中央病院は、急性期教育病院として、質・量ともに発展させる努力を重ね、今日を迎えています。今回の総合移転は、当会の中期計画として出発しました。

移転成功の鍵となる経営改善がまったなしの最重点課題です。法人の役職員が心をひとつにして、本事業に期待を寄せていただいている患者、利用者、京都府民に心えるべく奮闘していきましょう。